

# 麦づくり情報(No.4)



## 1. 麦作況情報田の生育概況（3月22日調査）

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈葉数 (L)	葉色	概況
牛津	サチホゴールデン 4条播き	本年値	12/7	43.5 (102)	1120 (122)	9.8 (+0.6)	39.3 (-4.7)	草丈は平年と同等。 茎数は平年より多い。 生育は平年よりやや遅い。
		平年値	12/10	42.6	917	9.2	44.0	
大和	シロガネコムギ 6条播き	本年値	11/20	50.1 (108)	720 (98)	10.3 (+1.8)	47.9 (+3.9)	草丈は平年よりやや高い。 茎数は平年と同等。 止葉抽出。 生育は平年よりやや遅い。
		平年値	11/29	46.2	733	8.5	44.0	

## 参考 農試作況データ（3月22日調査）

品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈葉数 (L)	葉色	概況
サチホゴールデン	本年値	12/10	46.4 (90)	1017 (105)	8.9 (-0.2)	39.1 (-2.5)	草丈は平年より低い。 茎数は平年よりやや多い。 葉令からみた生育は平年と同等。
	平年値	12/10	51.4	968	9.1	41.6	
シロガネコムギ	本年値	11/19	52.1 (85)	637 (95)	9.1 (+0.2)	43.9 (-0.9)	草丈は平年より低い。 茎数は平年よりやや少ない。 葉令からみた生育は平年と同等。
	平年値	11/20	61.6	668	8.9	44.8	

### 気象概況

3月1～4半旬の平均気温は+3.4℃と平年より非常に高く推移した。降水量は、1～3半旬は平年の7%と非常に少なかったが、一転して4半旬は47.5mmの降雨がみられた（平年の196%）。日照時間は平年の133%と多照であった。

### 生育概況

小麦で11月中旬に播種した圃場では止葉が展開し、穂孕み期（11/20播 幼耳間長3～5cm）となっており、11月下旬に播種した圃場では葉齢が止葉葉位に達している。生育は平年よりやや遅い。大麦は11月播きの圃場で穂孕み期～出穂始めとなっており、生育は平年よりやや遅れている。

## 2. 今後の管理

### 1. 穂揃期追肥

近年、麦の品質ランクにおいて小麦・大麦とも低タンパク傾向が指摘され、実需からは改善が求められている。下表を参考に散布する。また、小麦は製粉しないと利用できないため、生産するだけでなく、実需が望む品質（タンパク質含有率）に仕上げる必要がある。そのため、タンパク向上に直結する穂揃期追肥は必ず施用する必要がある。特にパン用小麦は、倒伏しそうでも必ず施用する。

### 葉色の褪め方にかかわらず必ず施用

品 種	窒素量 kg/10a	実肥の施用量 (/10a)
パン用 はる風ふわり	5	硫安 25kg または 尿素 12.5kg
パン用 さちかおり	6	硫安 30kg または 尿素 15kg
めん用 チクゴイズミ	3	硫安 15kg または 尿素 7.5kg

### 葉色が薄い場合（出穂期頃の SPAD 値 40 以下）施用

品 種	窒素量 kg/10a	実肥の施用量 (/10a)
シロガネコムギ	2	硫安 10kg または 尿素 5kg
大麦	2	硫安 10kg または 尿素 5kg

★穂揃期追肥は出穂期 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要となる。

※出穂期：圃場内の 4～5 割の穂が出た頃

#### 〈液肥利用の留意点〉

・肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。

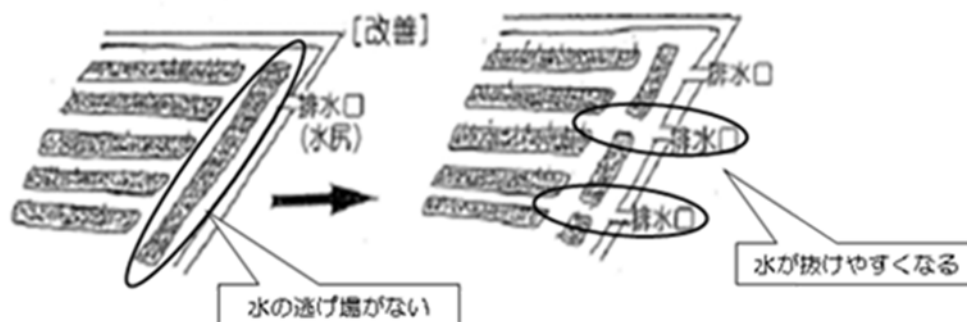
※硫安による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。

・乗用管理機での施用の場合、赤カビ防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3～4割追加した量が必要になる。

・液肥施用後、葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

## 2. 排水対策

今後、降雨量が増えることが予測される。湿害により根の生育が抑制され、登熟に影響するため、**排水溝を再整備するなど排水強化**を行う。



## 3. 防除

網斑病・赤かび病は**予防が基本**（散布時期が遅れないよう各圃場の状況確認を行う）

◆赤かび病：はるか二条およびパン用小麦については、2回防除する

### 小麦

- ・開花期（＝出穂期の約 7～10 日後）に防除
- ・2回目の防除（1回目防除の 10～20 日後）

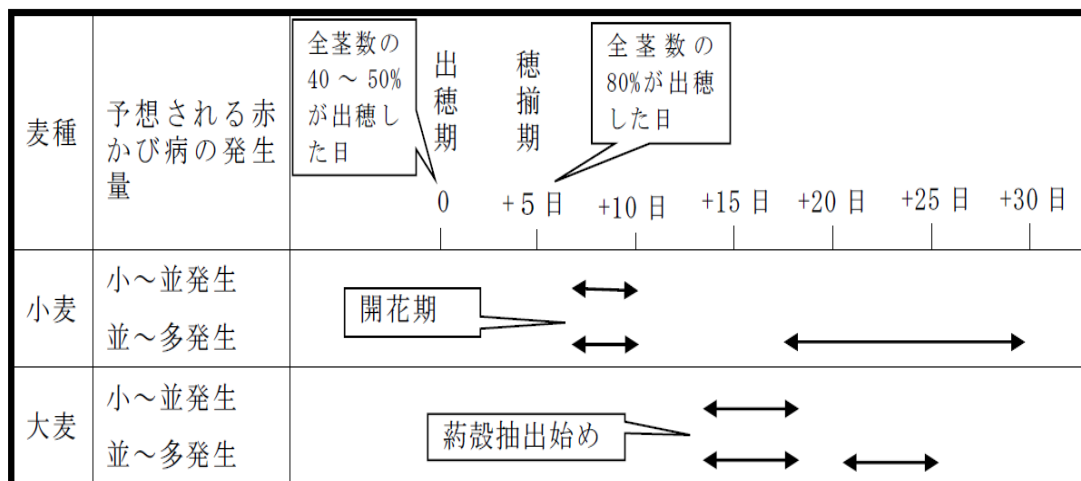
### 大麦

- ・薬殻抽出始め（＝出穂期の約 2 週間後）に防除  
※多発生が予想される場合は 2 回実施（1 回目防除 7 日後）
- ・トップジンM水和剤を使用する場合は、収穫前 30 日前までの使用となっているので注意する

大麦の芒(のげ)の下から  
黒い **薬殻** が出る時期に防除



### 赤かび病の防除適期



- 注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。  
 注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。  
 注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。  
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用量(収穫前日数)に特に注意する。

◆網斑病：上位3葉まで病斑を進展させてしまうと、登熟に影響し大幅な減収・品質低下となるので、発生状況に合わせて早めに薬剤散布(チルト乳剤等)を行う。

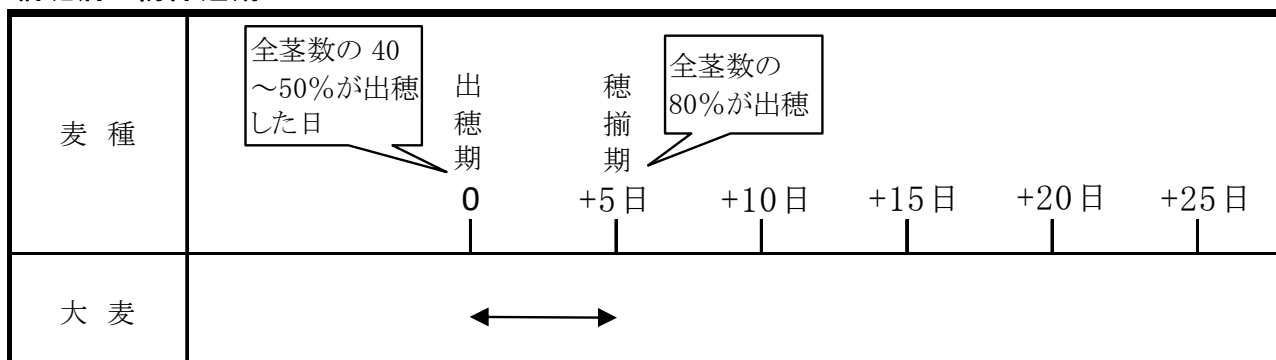
#### 大麦

- 防除適期は出穂期～穂揃期
- ※ただしこれより早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は直ちに防除を実施する。



※網斑病が発生した大麦の様子  
網目状の茶色い病斑ができ、周縁部は黄化している。

### 網斑病の防除適期



- 注1) 出穂期とは全茎数の40～50%、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。  
 注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫21日前まで	1回	散布

○参考【農業試験研究センター 出穂期予測】

品種	播種期	年次	幼穂形成始期 (月/日) (平年 差)		節間伸長開始期 (月/日) (平年 差)		莖立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネ コムギ	11/19	本年	2/2	-2	2/23	+7	3/1	未
		平年	2/4	0	2/16	0	—	4/1
	12/9	本年	3/1	+6	3/8	+4	3/13	未
		平年	2/23	0	3/4	0	—	4/9
サチホゴ ールデン	12/1	本年	2/7	-1	3/2	+7	3/10	未
		前年	2/8	0	2/23		3/2	3/28
	12/10	本年	2/16	+5	3/9	+7	3/13	未
		平年	2/11	0	3/2	0	—	4/3

注1)「シロガネコムギ」の平年値は過去7ヶ年の内収量が最高と最低を除いた5ヶ年の平均

注2)「サチホゴールデン」の12/1播種は、昨年度(R3年産)から実施のため、本年値は前年値と比較

注3)「サチホゴールデン」の平年値は過去6ヶ年の平均

注4)「はるか二条」の平年値は過去4ヶ年の平均

農研機構にて、積算気温等による麦の出穂期予測が公開されています。

詳細は下記URLを参考ください。

●農研機構：リアルタイムアメダスを用いた麦の発育ステージ予測

[http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo\\_fukuyama/WEB/wheat/index\\_mugi.html](http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html)

※3月22日時点のシロガネコムギの予測出穂期

11/20播種：3月30日

12/10播種：4月9日

(平年より5日程度遅い見込み)

## 令和4年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター

